

八王子明星父母会会報

Hachioji Meisei Fubokai Kaiho



2010 September VOL.5

子どもとともに…

八王子明星父母会 会長 内山 光洋

平成22年度の八王子明星父母会が皆様のお力添えにより、7月3日に無事開催することができましたことを、心より御礼申し上げます。

いつの時代でも子どもたちは、一人で育っていくわけではありません。家族はもとより学苑の先生方、周りの人々の力があってこそ、はじめて素晴らしい教育ができるのではないのでしょうか。父母会では、子どもたちがより健やかに、安全に学苑生活を送れるよう、さらなる活発な意見交換のできる場所としての環境作りに励むとともに、この会により多くの保護者をご参加いただけますよう、よろしく御礼申し上げます。

高等学校教頭 山寺 忠之

八王子明星会に出席して

分科会・懇親会に出席させていただき、小学生・中学生・高校生の保護者の皆様から貴重なご意見やお話を伺う事が出来ました。そして、私共も学校からのお願いやご説明のお話しができ、有意義な時間を過ごす事が出来ました。最初は初対面の方もいらしたので、緊張してお話しが進まない場面もありましたが、司会の方のリードと、保護者の方のユーモアあるお話しをしていただいた事でスムーズに会が進み、学校生活などでの心配事まで話していただく事が出来ました。同じ学年のお母様方の同じ悩みを、先輩のお母様からのアドバイスで、心配事が少し薄らいだのではないのでしょうか。学年を越え、保護者の方が情報を交換したりお話しができるのは八王子明星会ならではの事と思います。同じ地域に住み、同じ学苑に通う生徒の保護者の皆様がフランクにお話しできる環境があることは大変良い事だと思います。懇親会の中では歴代の会長様ともお話しすることができ、私の知らない昔のお話しもしていただきました。たくさんの方々を支えられ、現在の八王子明星父母会があるのだと感じ、会を盛り上げてこられた方々のご苦労に感謝したいと思います。

児玉九十先生の教えを受け継ぎ、創立87周年を迎えた明星学苑は、言葉は適切でないかもしれませんが、八王子明星父母会のようなファンクラブに支えられてきたのではないかと思います。ファンの皆様にさらに愛され、子・孫そしてそのお子さんにも選ばれる学校になるように、改めて八王子明星父母会に出席させていただき、身の引き締まる思いとともに、皆様のご意見を大切に明星での仕事に頑張りたいと思いました。

子どもの成長

小学校校長 菅野 秀二

「人を育てるということは、長い時間と歳月を要するものです。それだけに、教える方も学ぶ方も努力と忍耐を要するものです。」という話しをよくします。人間世界では、庭も木も、自分の子も、日本経済も「早く大きくなる」ことはかり求められているような気がします。しかし、スギ、ヒノキ、モミといった木は、時間をかけ根をしっかりと張り、引き締まった年輪をきざみながら大きくなります。こういう木は、風に強く、また、虫にも簡単には食われることがないそうです。もちろん、ゆっくりとは、スピードではなく、質の問題なのです。

子どもたちの人生は長いのです。何年、何十年か先に向けて、地道な努力をすることが大切です。今日一日、明日一日でその成果が出るわけではありません。こつこつと地道に積み重ねていけば、やがて大きな財産となることでしょう。

「ゆっくり成長する木はたくましい。本当の木は大器晩成である。」ぜひ、子どもの成長していく姿を、いろいろな角度から見つめてあげてください。

分科会 小学校



水曜日と金曜日に課外で自学の勉強をしています。遊びたいのではないかと思います、家庭ではどのように思っていますか？

- ・勉強が出来ない子が残ってるという認識をしている家庭が多い。
- ・課外で行っていることを知らない保護者がいる。
- ・子どもが残って勉強したくないと言っているのを本人に任せている。
- ・参加しているが、掃除があると週1回の出席になってしまう。
- ・授業以外のプリントが貰えるので子どもが喜んでいる。
- ・参加出来るきっかけや巾を持たせてもらとう嬉しい。

この自学については、学校で教わったことは学校で解決していく為に行っています。学習塾で補うという考えではありません。5年生はテストの点数が悪いと残って参加するという認識をしています。学校としても声掛けをしやすいし、解らない部分を補うことが出来る為に行っています。他の学年は、自分の理解出来ない部分を勉強するために来ているので、バラツキがあります。6年生はサマースクールを行います。学校としては、なるべく多くの生徒に来てほしいので、中高のカフェテリアを使用出来るようにしました。その結果、参加しないとっていた生徒が、カフェテリア目当てに参加すると言っています。



菅野校長先生・古賀教頭先生・野崎教務主任



保護者の方々

Q：勉強について子どもと母親が喧嘩になる。勉強をさせる動機付けをどのようにしたらいいか。
A：小さな達成感を持たせることが必要かと思います。理解しているのに勉強させると反発する。やるものがないのに勉強しろと言うと難しいので、やるものを与えることも必要です。子どもが目標を持ってくれば勉強に繋がるのではないかと思います。

Q：塾に通って休む間がないので、日曜日は勉強をしなくてもいい事にしています。手をつけていない学校のプリントが出てきました。どうしたらいいでしょうか。
A：時間を確保できるようにしてあげればいいのではないのでしょうか。

Q：他の子に手を出してしまった。先生に相談し、学校に全てお任せしましたが、先日先方の保護者に何故電話をくれなかったと言われてしまいました。どうするべきだったのでしょうか。
A：トラブルの内容によって対応が違ってくると思います。その時の判断で担任は任せてほしいと思ったことでしょ。保護者同士が状況が解らないまま話しをするとトラブルになることもあるので、子ども同士が解決してから親が動いた方がいいと思います。

Q：水泳の級が解らない。また、屋内プールなので、プールの時間を増やせませんか。
A：泳げるのに形が悪くてクリア出来ないのが原因かと思います。そしてプールの時間ですが、体育のカリキュラムがあるので難しいです。子どもの体が冷えるので、屋内であってもこの期間がいいと考えています。

総会



年間行事

※平成21年度

- 委員会の招集 (5/26・6/23・7/9・9/5)
- 総会の開催 (7/12)
- 分科会の開催 (7/12)
- 懇親会の開催 (7/12)
- 編集会議 (9/5)
- 会報誌の発行 (9/25)
- 卒業生への記念品贈呈 (翌年3月卒業式)

新役員の紹介

本年度より、新役員としてご協力していただくことになりました。よろしく御礼致します。

山下徳恵 さん
柴田るみ さん
青山真理 さん



分科会 中学・高等学校

今年の分科会は勉強面での事よりも、生活面の方に意見が集中したような気がしました。中でも、凝念が浸透していなかったり、言葉遣いの悪さが目立つとか、女子の制服の問題や、学校行事の修学旅行（高校）で、なぜ今年から海外ではなく国内なのか、などという内容でした。



学校側にも一つ一つ丁寧にお応えいただきました。言葉遣いについては、個別での注意はもちろん、学年ごとの朝礼で「生徒に良い言葉遣いを…」というような働き掛けをし、そのためにはまず我々先生がお手本とならなければなりません、と意志統一されているようです。

二番目の女子の制服の問題について具体的に言うと、ブラウスがあまりにも透けたり、ヨレヨレしてダラしく見えてしまうので、鹿の子の生地のような素材でブラウス代わりはありませんか、ということでした。今現在、男女の制服プライスが同額ではないという事



山寺教頭先生(高校)・本田教頭先生(中学)・高林先生・長澤先生

もおっしゃって頂きました。プライス同額を含め前向きにご検討いただくということでした。

そして修学旅行の問題については、数年前の燃油サーチャージ高騰、あるご家庭での金銭面の不備等が国内旅行にする理由として上げられました。日本を知らずして何故海外という国内旅行賛成意見もありましたが、やはり子供には何としても海外を経験させてあげたい、ましてや「世界に貢献する人の育成」を建学の精神として目指している訳ですから、海外旅行は必要だ、という意見が上がりました。

その他にも色々意見交換されました。そして、八王子明星父母会という会にとっても感謝しているという山寺先生のお言葉、子どもたちの生きる力を養い、表現力を豊かにしたいという本田先生や高林先生のお言葉、とにかく子どもが居心地のいい学校にしたいという長澤先生のお言葉など、先生方の方から保護者の方への思いをお聞きする事が出来ました。



懇親会



恒例となりましたジャンケンゲームです。今回は景品が少なく短時間で終わってしまいました。次回はもっと景品を増やしたいと思います。

懇親会では、普段話さない会話が繰り広げられます…